

瀬戸内海環境保全特別措置法制定 50 周年記念式典の開催

瀬戸内海環境保全知事・市長会議事務局

1. はじめに

1973 年に「瀬戸内海環境保全臨時措置法(1978 年に現名称に改正)」が制定されてから、今年で 50 年を迎えました。

かつて「瀬死の海」と呼ばれるほどに水質汚濁が進行していた瀬戸内海は、官民一体となった取組みが奏功し、水質が改善されつつある一方、ノリの色落ち等をはじめ、解決すべき課題を多く抱えています。

そこで、さらなる豊かで美しい瀬戸内海の実現を目指し、瀬戸内海の未来に向けた持続可能な取組みについて、次世代を担う若者とともに考える「瀬戸内海環境保全特別措置法制定 50 周年記念式典」を、令和 5 年 11 月 12 日に兵庫県神戸市で開催しました¹⁾。

式典には、環境副大臣、兵庫県知事、神戸市副市長、国会議員、府県市議会議員、関係省庁・府県市、関係機関、漁業関係者、大学生、高校生など約 400 名が参加し、高校生によるポスターセッション、大学生による活動報告・提言、Z 世代と有識者らによるパネルディスカッション等を行いました。

本誌では、式典の概要とともに、当日を迎えるまでの若者たちの取組みとその様子を紹介します。

2. 記念式典

2.1 開会

瀬戸内海を取り巻く環境の変化やそれに対応するための法改正等を中心に、瀬戸内海の 50 年を振り返るオープニング動画を上映しました。

また、滝沢求環境副大臣、齋藤元彦兵庫県知事(瀬戸内海環境保全知事・市長会議議長、(公社)瀬戸内海環境保全協会会長)、山本順三瀬戸内海再生議員連盟会長からご挨拶をいただきました。

2.2 ポスターセッション

当会議構成府県²⁾にある高校を対象に、瀬戸内海の地域の課題解決に向けた調査・研究の成果を募集し、21 校にご参加いただきました(うち 1 校は福井県からの特別参加)。

第 1 部では、会場でのポスター発表に加え、オンライン配信での口頭発表を行いました。各校の発表テーマは、森川里海に関する調査研究や、海洋ごみ対策、生物多様性、気候変動対策等、多岐に渡っており、生徒間での意見交換や質疑が活発に行われていました。

第 2 部では、有識者等の審査により決定した最優秀賞 1 校、優秀賞 2 校の表彰を行いました。

最優秀賞を受賞した山陽学園高校は、瀬戸内海のごみ問題の解決に向けた活動について発表しました。「1 人の 100 歩ではなく 100 人の 1 歩」を目標に開発したごみ拾いアプリを利用して、市民にごみの状



写真1 ポスター発表会場の様子

況を報告してもらい、その対策と啓蒙を目指すシビック・テックが審査員に評価されました。

また、優秀賞を受賞した2校のうち、兵庫県立御影高校は、六甲山に発生するキノコの調査と河川の水質調査による山と海のつながりについて発表し、大分県立海洋科学高校は、温暖化により増えたブダイがカジメなどの海藻の減少要因とされていることから、漁業者とともにブダイを美味しく加工し、藻場を増やすことを提案しました。



写真2 ポスターセッション表彰式

最優秀賞 山陽学園高校	瀬戸内海の海洋ごみ問題の解決に向けての実践 ～「シビック・テック」活用による市民協働活動からの挑戦～
優 秀 賞 兵庫県立御影高校	キノコから六甲山の環境を探る ～海と山のつながりを考える～
大分県立海洋科学高校	食品コースが取り組む海洋環境問題 ブダイを美味しく食べて藻場を増やそう

2. 3 大学生による活動報告・「瀬戸内未来ビジョン」の提言

瀬戸内海や海洋、環境に興味を持つ大学生 17 名が、4つのチームに分かれ、瀬戸内海各地で里海づくり体験や現地取材(＝ユースアクション)を行いました。

活動報告では、チームごとにテーマを定め、ユースアクションを通して学んだことや今後の課題、目指したい方向性やビジョンなどについてスライドにまとめ発表しました。また、発表前には、自分たちで撮影した活動中の動画や写真をまとめたショート動画も上映しました。

さらに、各チームの発表を(一社)Re-Generation 右近宣人代表理事の監修のもと総括し、「50年後も世界に誇れる」SETOUCHI“に”というメッセージとともに、「瀬戸内未来ビジョン」として提言しました。

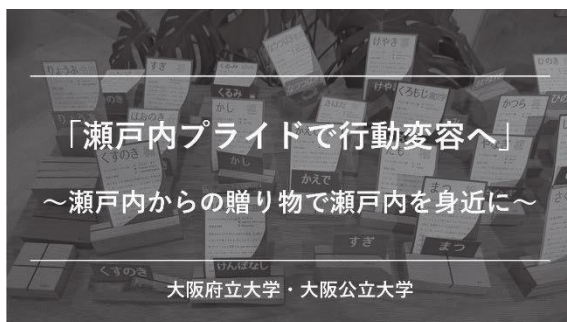


図1 大阪府立大学・大阪公立大学の発表テーマ



図2 香川大学・徳島大学の発表テーマ



図3 神戸大学・関西学院大学の発表テーマ



図4 近畿大学の発表テーマ

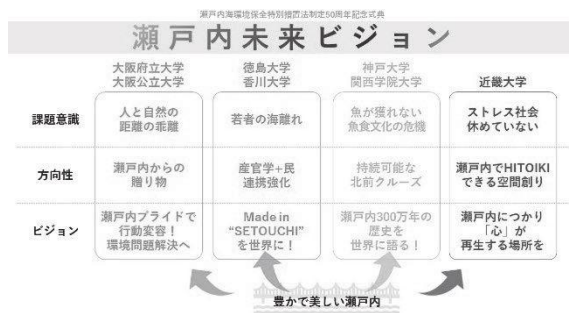


図5 「瀬戸内未来ビジョン」提言資料 抜粋



写真3 「瀬戸内未来ビジョン」提言の様子

2. 4 パネルディスカッション

「瀬戸内未来ビジョン」の提言を受け、Z世代と有識者らによるパネルディスカッションを行いました。

環境省の土居健太郎水・大気環境局長、兵庫県の菅範昭環境部長、広島大学の松田治名誉教授のほか、Z世代を代表して、神戸大学・近畿大学の学生、山陽学園高校・広島県立広島国泰寺高校・兵庫県立尼崎小田高校の生徒の計9名が登壇し、(一社)Re-Generationの右近代表理事が進行を務めました。

大学生からはプロジェクトに参加した感想や思いを、高校生からは瀬戸内をフィールドに取り組んでいる研究内容や瀬戸内海の未来に対する思いが語られました。

Z世代からの発表に対して、環境省は瀬戸内海環境保全特別措置法の所管省庁として、兵庫県は瀬戸内海の環境保全を担う地方自治体の代表として、広島大学の松田名誉教授は里海づくりの実践活動に尽力されたご経験から、それぞれ意見を述べました。

総括では、松田名誉教授が「瀬戸内海は海域によって特性が異なるため、地域ごとに豊かな海とは何か議論が必要。豊かできれいな海を実現すると、Human Well-Beingにも繋がる。人と海との関係を再構築して、50年後も世界に誇れる瀬戸内を目指そう」とまとめ、閉会しました。



写真4 パネルディスカッションの様子

3. 式典当日を迎えるまで

3. 1 大学生チームによるワークショップの開催

記念式典の発表に向けて、7～10月にかけてワークショップを3回開催しました。

第1回は、ユースアクションに参加する大学生が、松田名誉教授から瀬戸内海の歴史や里海づくりを学び、瀬戸内海に対するイメージや課題を共有しました。また、ユースアクションの様子を撮影するため、スマホを使った撮影技術等についても学びました。

第2回では、報道関係者から、提言策定のために必要な「まとめる」「伝える」編集技術を学びました。さらに、各チームが思い描く「瀬戸内未来ビジョン」を共有し、提言を通して式典参加者に何を伝えたいかを中心に議論しました。

第3回では、提言全体の構成と各チームの発表テーマを考え、発表する側は「伝える」ことを、聞く側は「自分たちに無い観点に気づき、チームに還元する」ことを意識してまとめ作業を行いました。

また、ワークショップやユースアクション以外にも、各チームでのミーティングや取材の事前準備、(一社)Re-Generation や有識者との打合せなど、限られた時間の中で最大限の準備を重ねました。



写真5 ワークショップの様子

3. 2 大学生と高校生の意見交換

式典の提言に活かすため、Z世代が交流する場を創出し、(一社)Re-Generation の大学生メンバー、神戸大学の学生や兵庫県立尼崎小田高校の生徒が「尼崎運河探検クルーズ³⁾」を体験しました。

下船後は、クルーズの感想や瀬戸内の未来に対する思い、大阪・関西万博への若者の参画などに対する考えなどについて、有識者を変え大学生と高校生が意見を交わしました。



写真6 クルーズ乗船中の様子

4. 式典を振り返って

今回の式典は、Z世代を中心に幅広い世代が 50 年後の瀬戸内海のあり方を考え、発信する機会の創出に繋がらなかったのではないかと感じています。

Z世代の発想や提案に感化され、瀬戸内海のさらなる可能性を感じるとともに、今後の瀬戸内海、ひいては日本の未来を担う若者から、さらに次世代へ受け継がれていく“バトンパス”に期待しています。

5. 謝辞

式典の準備から当日までご協力いただきました多くの皆様のお力添えにより、無事盛会のうちに終えることができました。

今後とも、関係者一丸となり、より一層の豊かで美しい瀬戸内海を目指して、様々な持続可能な取組みを進めて参りたいと思います。

最後に、式典のアーカイブ映像を配信しておりますので、Z世代からのメッセージをぜひご視聴ください。

＝ Youtube にてアーカイブ映像配信中 ＝

【第1部】 <https://youtu.be/NN-RoXHBLKk>

【第2部】 https://youtu.be/N8vG_56EBdM

第1部



第2部



50 年後も世界に誇れる

“SETOUCHI”に

1) 主催：環境省、瀬戸内海環境保全知事・市長会議、(公社)瀬戸内海環境保全協会

2) 京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、岡山県、広島県、山口県、香川県、徳島県、愛媛県、福岡県、大分県

3) ひょうごフィールドパビリオンに選定された、大阪・関西万博に合わせて兵庫県が実施する体験型の観光プログラム